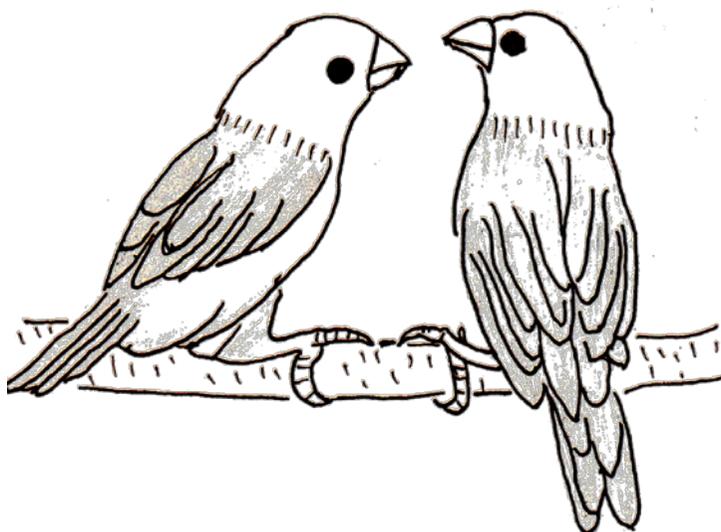


さえざり

作品集第 31 号



相模原失語症友の会

令和元年度

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

(敬称略)

◆巻頭言	-----2020 年会長陰山より	
	会員の皆さんへの年賀状	-----陰山 誠人-----1
◆作 文		
	『新江ノ島水族館』	-----大堀 孝章-----2
	『新江ノ島水族館』へのバス旅行記	-----後藤 孝治-----3
	相模原失語症友の会音楽療法に参加し1年たとうとしています	
	-----伊藤志の婦 付添人 文雄-----4	
◆私の自慢		
	自然薯作り	-----猶原 晃-----5
	家の庭の花壇	-----菅野 孝俊-----6
◆作 品		
書	I 和	-----II 三世諸佛-----内山 行央-----7
	I 幸	-----II 究意涅槃-----久田 稜-----9
	I 幸	-----II 玄遠-----真尋 繁子-----11
	I 幸	-----II 三世諸佛-----大野 敦子-----13
	I 心	-----II 一心-----一瀬 禎祐-----15
	I 和	-----II 三世諸佛-----板垣 暁雄-----17
絵	本栖湖と南アルプス・長野県安曇野	-----小川 治男-----19
	茗荷（みょうが）・ねこやなぎ	-----古山 久子-----20
	令和元年度手作り年賀状 I、II	-----南の会の皆さん-----21
	令和元年度手作り年賀状 I、II	-----中央の会の皆さん-----23
	令和2年1月南の会の皆さんの絵馬札づくり I、II	-----25

◆例会担当言語聴覚士の皆さんより

北里大学東病院

1年間ありがとうございました-----中島 麻友-----27

さがみりハビリテーション病院

今年の思い出 ～第一の誕生～ -----恒吉 智俊-----28

相模原協同病院

2年間を振り返って-----湯浅 敦子-----29

東芝林間病院

一年を振り返って-----遠山 千佳-----30

◆南の会音楽療法担当の音楽療法士さんより

音楽療法士

沖縄八重山諸島巡り-----越善 由佳-----31

◆日ごろお世話になっているボランティアの方より

近況報告と旅の思い出写真-----松木 蘭 一道-----32

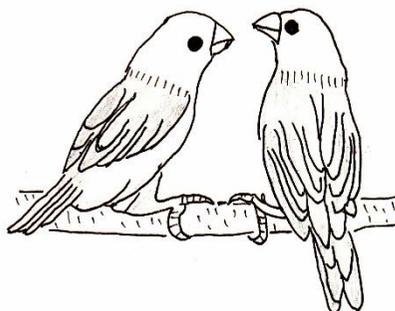
◆この1年の活動を振り返って

♣相模原市主催 障害者作品展-----33

♣相模原失語症ミニ作品展及び相談コーナー-----34

◆習字教室で稽古に励む生徒の皆さん-----37

◆編集後記-----古山 高



2020 年会長陰山より会員の皆さんへの年賀状

相模原失語症友の会

会長 陰山誠人

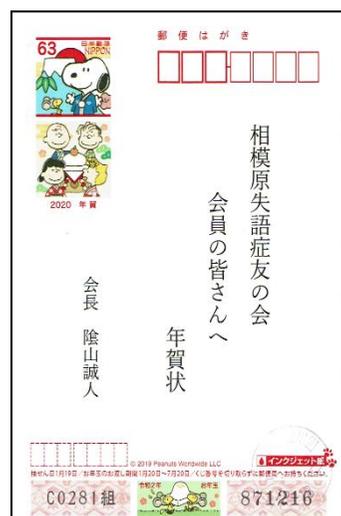
相模原失語症友の会の皆様 あけましておめでとうございます。

ご家族の皆様と共に楽しい新年を迎えられたことと思います。

昨年の台風 15 号、19 号で、ここ相模原市も大変な大きな被害を受けました。現在も修復工事が行われており、早期の回復を願っております。

今年は、7 月から 9 月にかけて、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。会員の皆様は、開会式、閉会式、各種競技の観覧入場券の入手が難しく、自宅でのテレビ観戦される方が多いかと思えます。

私は、昨年の例会の南の会、中央の会、音楽療法と休まず全て参加することが出来まして、お陰様で皆さんと楽しい時間を過ごすことが出来たことに感謝申し上げます。そして秋のバス研修旅行は「新江ノ島水族館」に行きました。イルカのショー、多くの水槽の中で泳ぐ魚を見て、いろいろと勉強になりました。相模湾で生息する魚達を見て、多くの種類の魚達がいることに驚きました。最後に、今年も皆さんと一緒に楽しい定例会にしていきたいと思っておりますので、ご指導、ご支援を宜しくお願いいたします。



『新江ノ島水族館』

中央の会 大堀 孝章

今年の失語症友の会の研修旅行は、『新江ノ島水族館』でした。

令和元年 10 月 29 日 (火)、集合場所であります市民会館前を、午前 8 時を少し回ってからバスが発車しました。途中、南メディカルセンター前で南の会の人、十数名を乗せて相模原を後にしました。当日は小雨が降っており小生しては「上がって欲しい」と、心から念じていました。藤沢に着き、水族館に入る前に昼食をとり江ノ島に渡りました。バス駐車場から店までは、大粒の雨でした。

『新江ノ島水族館』は、リニューアルオープンしたとのこと聞いておりました。入り口付近にも水族館内も大勢の小学生がおり、進ん行くのが大変でした。その時、小生の車椅子は会長の陰山さんに押してもらったので、すまないと思っています。

1 階のクラゲその他を見て、2 階に上がり水族館の目玉であるイルカ・アシカショー見に行きました、イルカは種類が有り、バンドウイルカ・ハナゴントウ・カマイルカが飼われているそうです。飼育員さんの言われた通りに泳いだり、ジャンプをしたり素晴らしいパフォーマンスを観て時間を過ごすことが出来ました。

1 階に戻り、縦 200 米・横 40 米の巨大な水槽の一部分でイワシの大群が泳いでいました。後で聞いたところ、8,000 匹だそうです。その中にマグロ、サメ、エイ、その他の魚がいました。ショーが始まると、女性の飼育員さんが水槽の中に入り、餌を与えていました。沢山のエイがいるかで、1 匹だけが飼育員さんと仲良く楽しんで泳いでいました。ショー終わり、飼育員さんが観客の側へと来ていろいろな話をしました。

成り行き任せた『新江ノ島水族館』も後にして、無事に帰路に着きました。

『新江ノ島水族館』へのバス旅行記

南の会 後藤 孝治

令和元年 秋のバス旅行は、『新江ノ島水族館』に行くことになりました。

当日は朝から雨が降り、江ノ島までの道が混んでいましたが、バスガイドさんがいろいろと面白い話をしてくれたので良かったです。

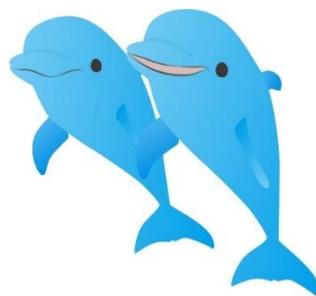
江ノ島に着いたときには、もう昼前だったので、水族館に行く前に昼食を「貝作」で食べました。その後、水族館に向かいました。

水族館には、沢山の遠足の子供達が見に来ていたので、にぎやかでした。イルカショーがすぐに始まり、人とイルカのショーが面白く見れて良かったです。

その後、水族館内をいろいろと見学しました。「クラゲファンタジーホール」では、クラゲの特殊な映像を見て、海の中にいるような幻想空間が楽しかったです。「相模湾大水槽」では、人と魚たちが素敵なふれあいを見せてくれました。

帰りも、雨がやまなかったですが、楽しい日を過ごし、無事に帰りました。

皆さん、ありがとうございました。



相模原失語症友の会音楽療法に入会し

1年たとうとしています

南の会 伊藤志の婦 付添人 文雄

横浜市リハビリテーション施設の中で、失語症の方のための「音楽を楽しむ会」を、月2回2時間の音楽を楽しんでいましたが、1年半くらい経った時に、歌えないからもう辞めたいと言い出しまして退会した経験があります。

「歌は歌いたいが、歌詞が出てこない…。こんな繰り返しの日々を送っていました。

TVで「音楽を取り入れた治療方法が開発されて、病院等で導入されています」という様な、放送を視聴して、早く身近の病院でも始まってくれたらいいなと思っていました処、デイサービスの言語聴覚士の先生が、「音楽療法専門家の先生が指導している会がある」との紹介をして頂き、当会に参加させていただくこととなりました。

会に参加していても、全ての曲で、歌詞が出てこなかったり、イライラするときはありますが、歌詞が出て来ない時は、メロディーは、頭に残っているようで、ラララ等で歌っている処です、畳の1目程度ですが、1歩1歩前進していることは確かだと思っているところです。

先生から教えて頂いた曲の、歌い方等を思い出しながら、家で、ユーチューブで復習しながら、少しでも歌詞が歌えればと考えています。

会の皆様の和気あいあいの中、先生の楽しい指導の元に、失語症の苦しみから、少しでも解放の時間があればと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

自然薯作り

中央の会 猶原 晃

こんな立派な長い自然薯に育ちました。



私の自慢 家の庭の花壇

中央の会 菅野 孝俊

四季のお花が、家の庭できれいに咲きました。

福寿草



パンジー



ぼたん



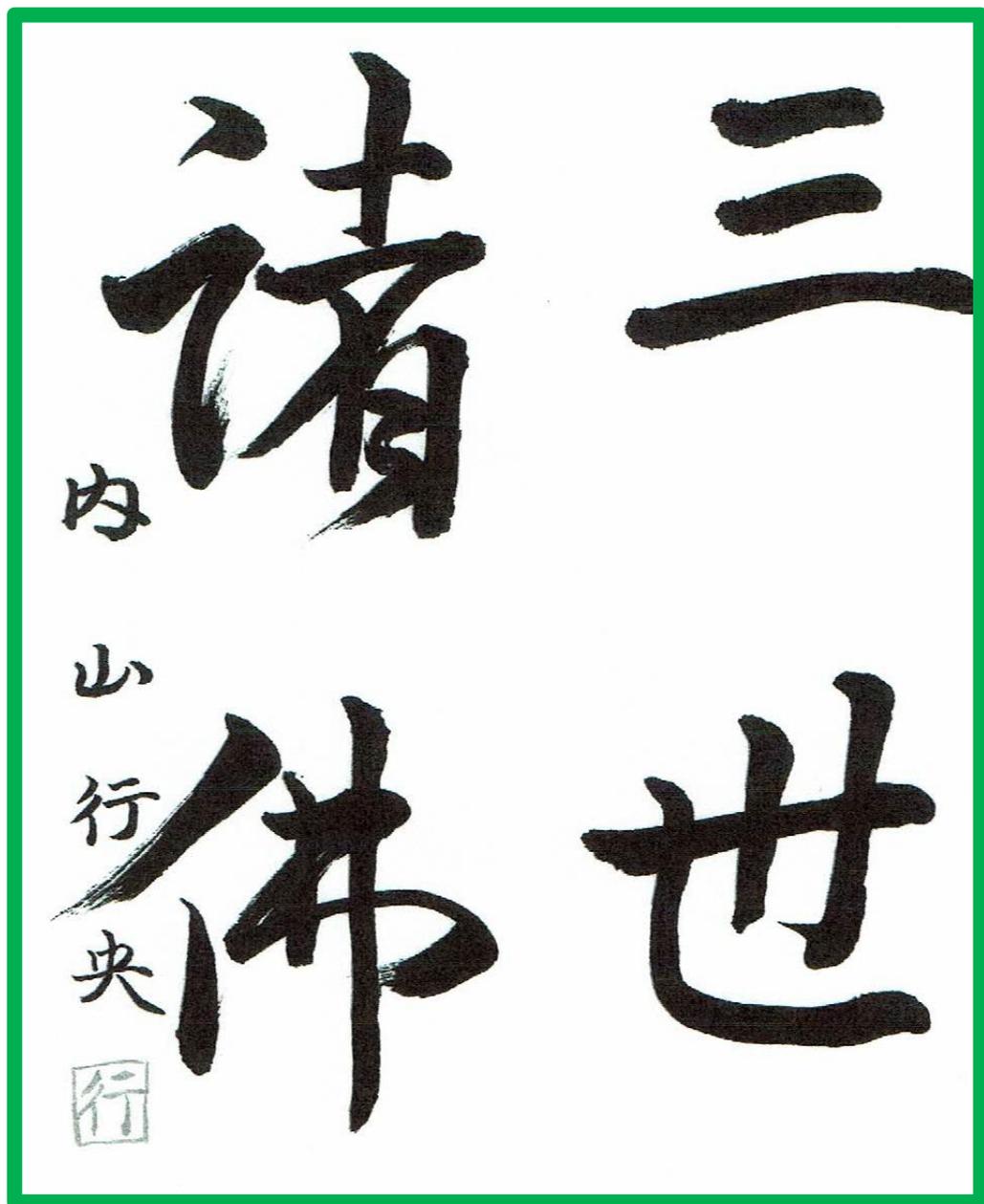
クレマチス



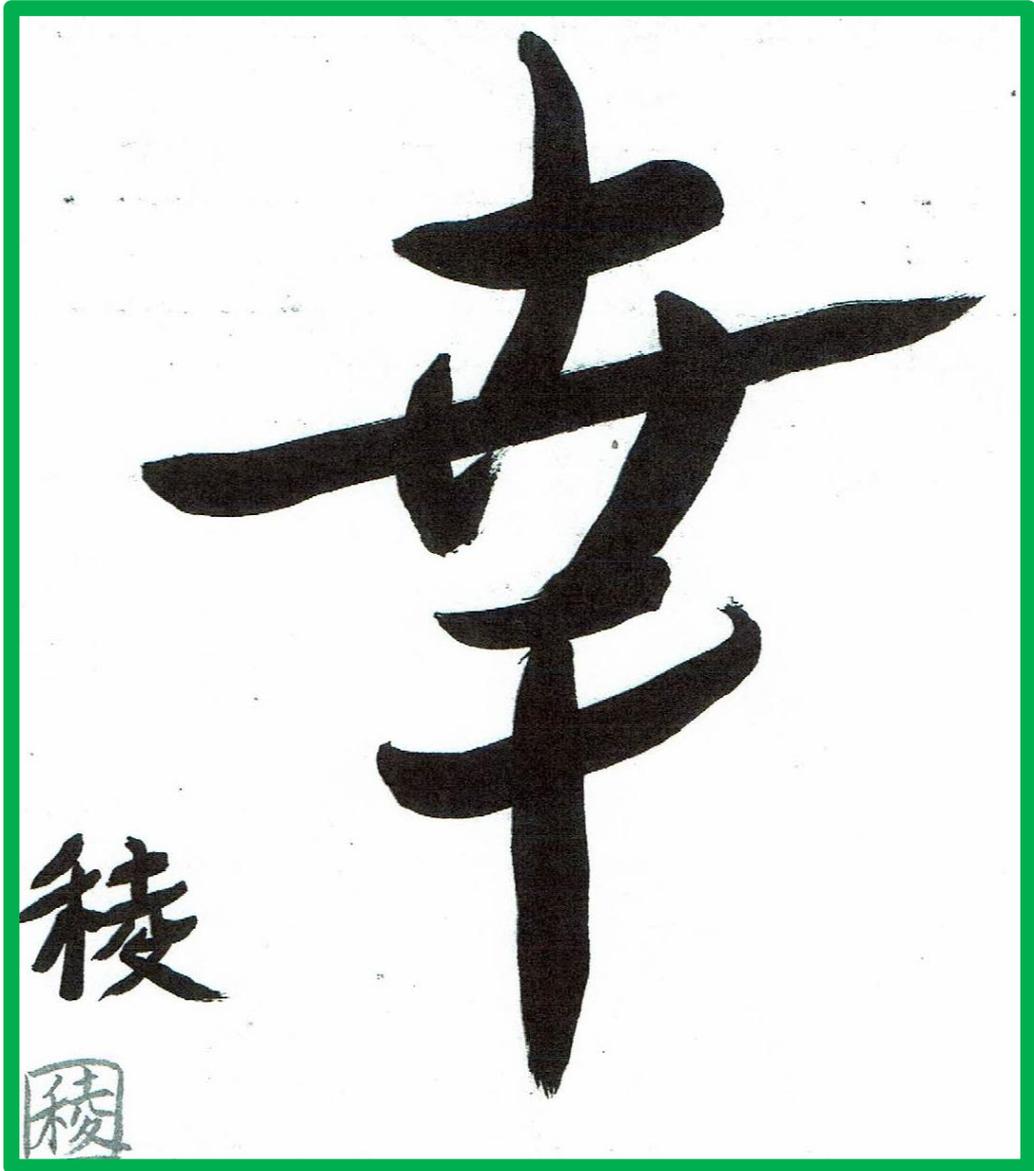
中央の会 内山 行央さん作品 I 書



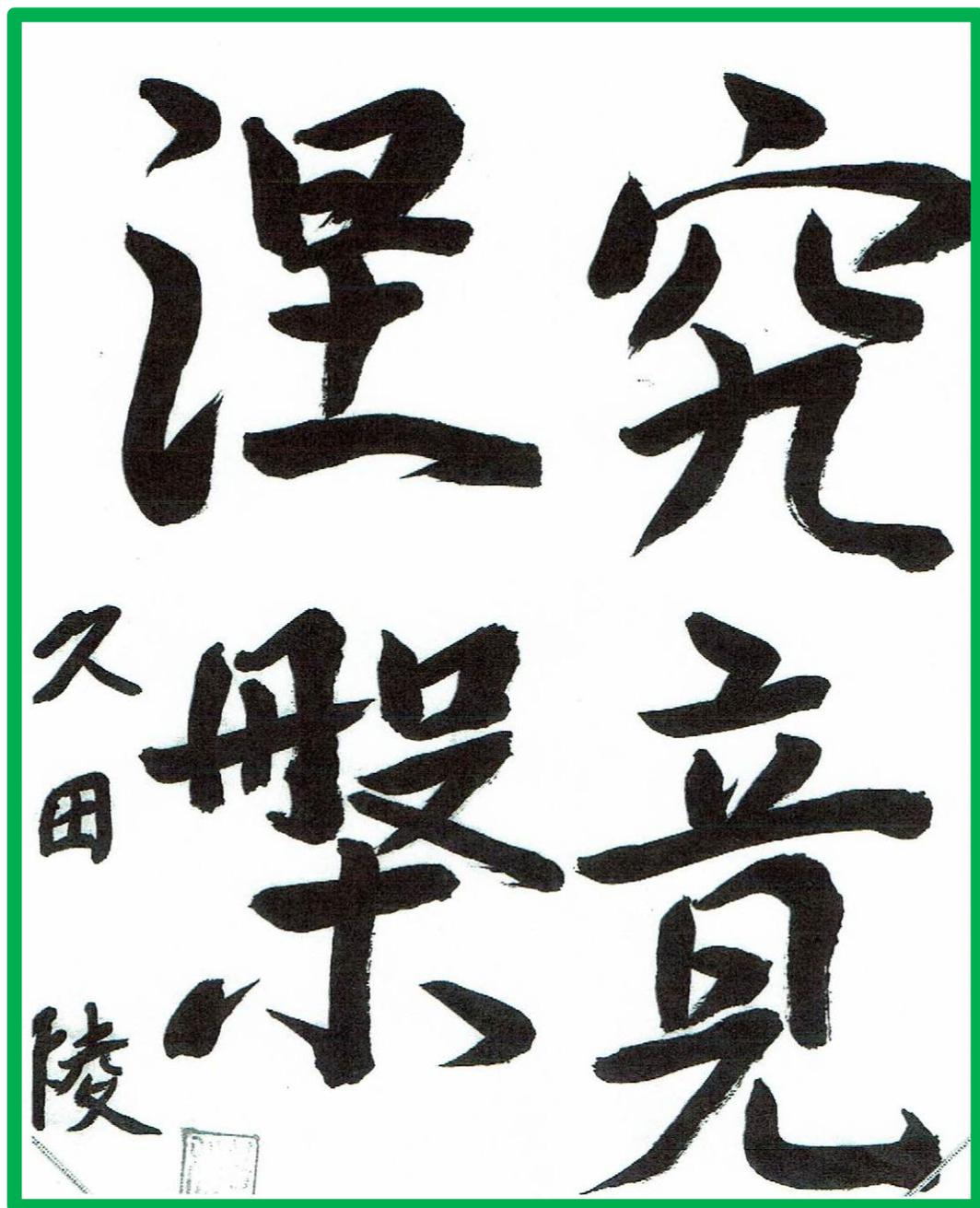
中央の会 内山 行央さん作品Ⅱ 書



南の会 久田 稜さん作品 I 書



南の会 久田 稜さん作品Ⅱ 書



南の会 真多 繁子さん作品 I 書



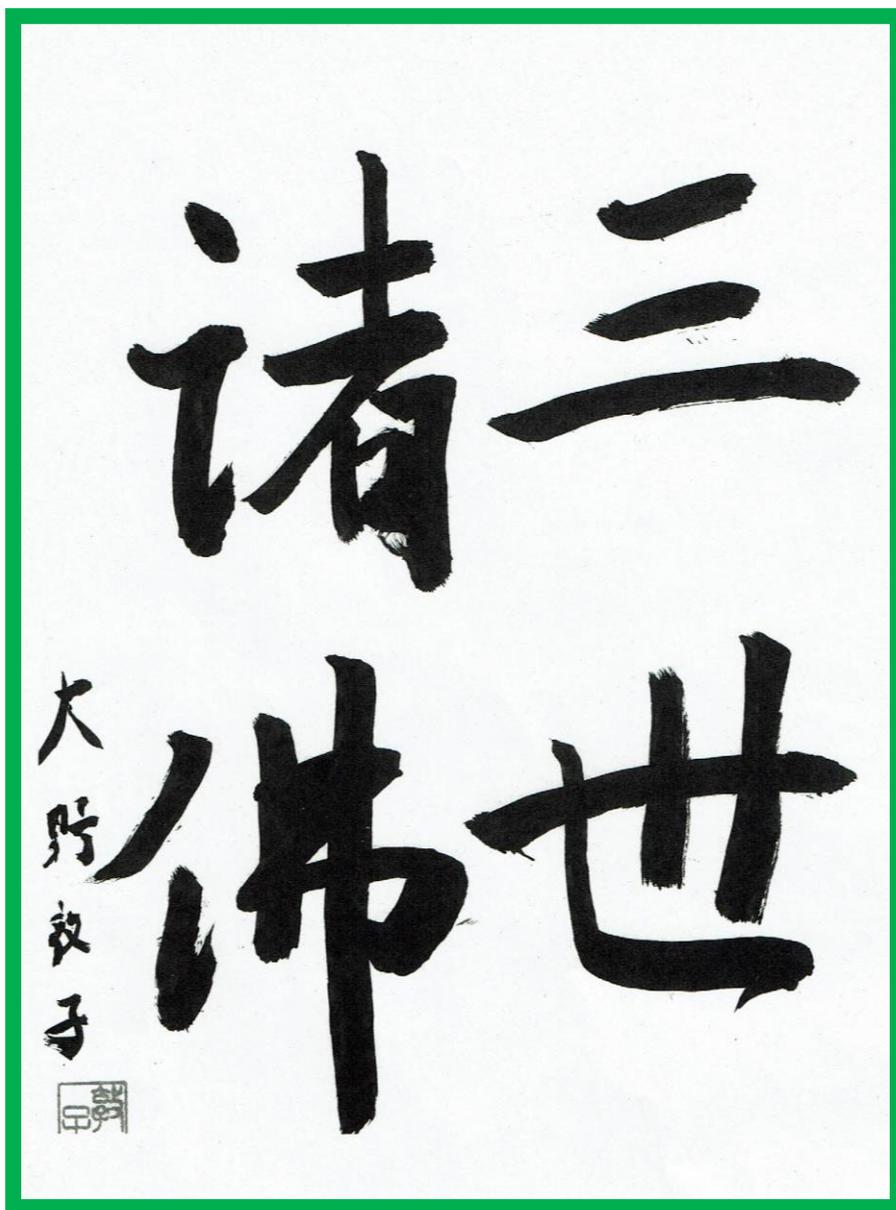
南の会 真多 繁子さん作品Ⅱ 書



南の会 大野 敦子さん作品 I 書



南の会 大野 敦子さん作品Ⅱ 書



中央の会 一瀬 禎祐さん作品 I 書



中央の会 一瀬 禎祐さん作品Ⅱ 書



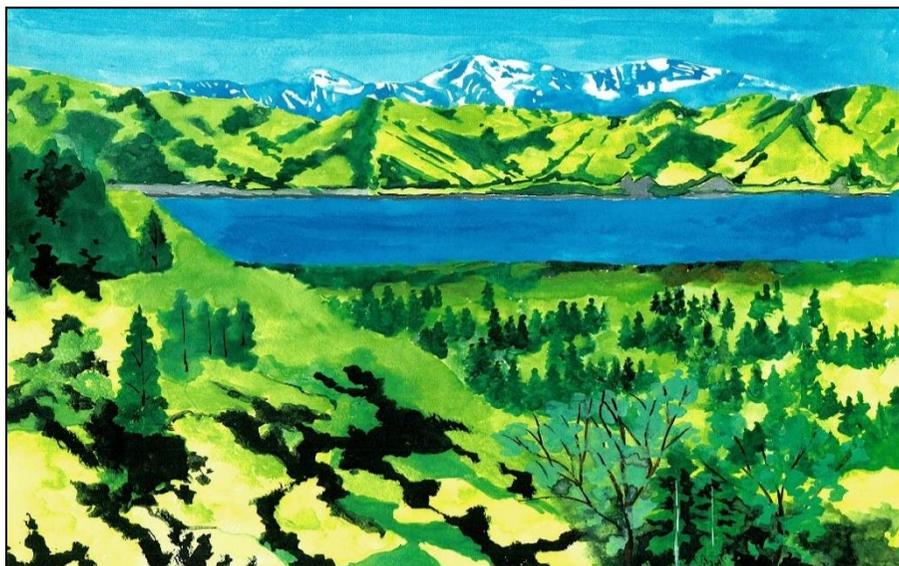
南の会 板垣 暁夫さん作品 I 書



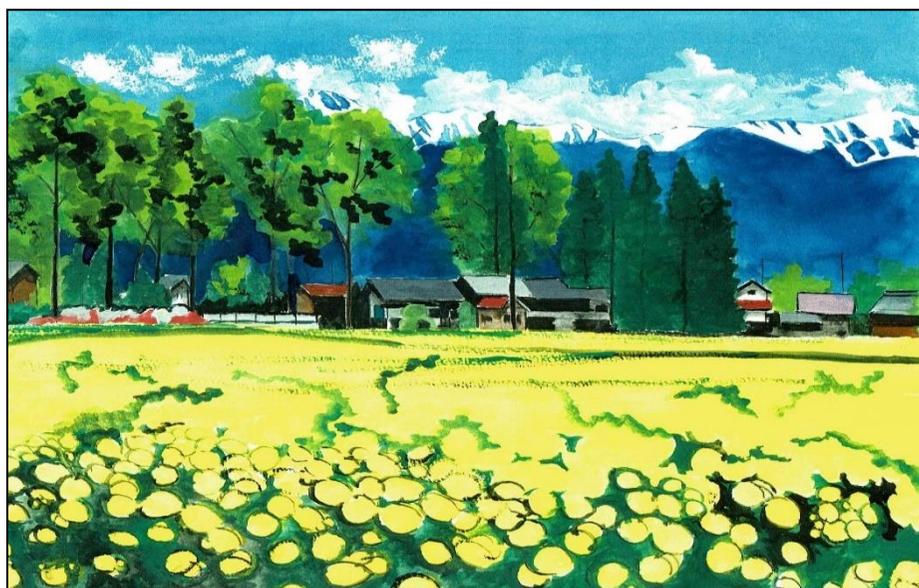


中央の会 小川 治男さん作品 絵

本栖湖と南アルプス



長野県安曇野



南の会 古山 久子さん作品 絵

みょうが



ねこやなぎ

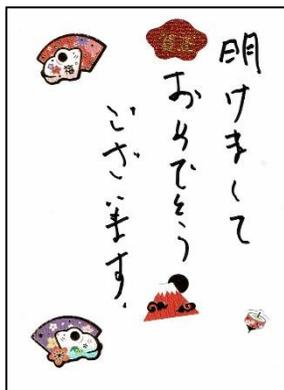


令和元年度 手作り年賀状 I 南の会の皆さん

指導担当：遠山先生、越善先生



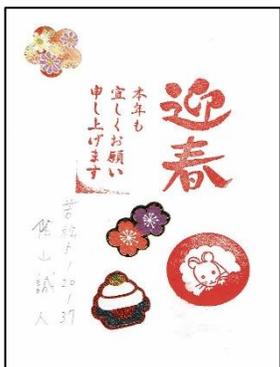
稲垣 龍男



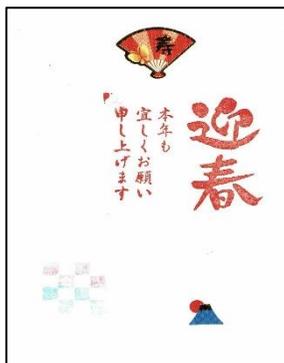
大野 敦子



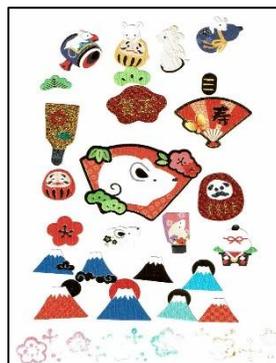
大塚 孝章



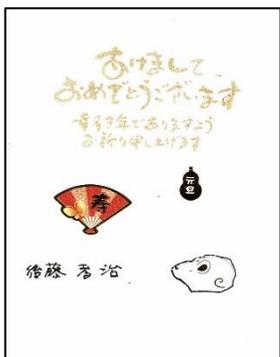
陰山 誠人



久保 勝利



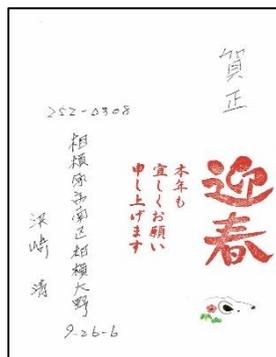
古賀 国靖



後藤 孝治



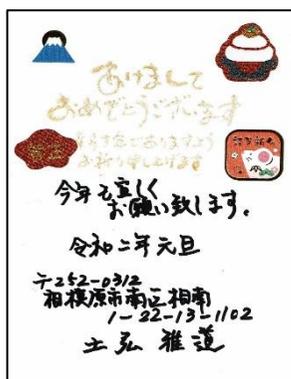
里見 義丈



沢崎 清

令和元年度 手作り年賀状Ⅱ 南の会の皆さん

指導担当：遠山先生、越善先生



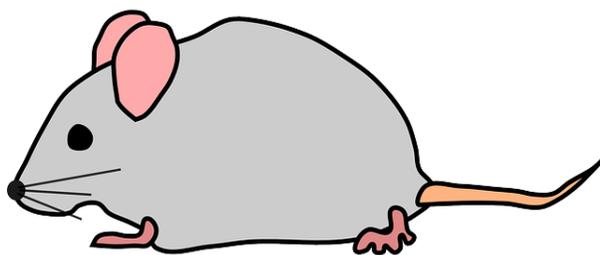
土弘 雅道



中澤 秀樹



真多 繁子



令和元年度 中央の会の皆さんの年賀状 I

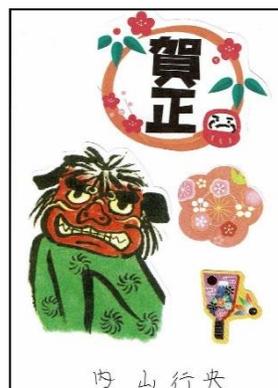
指導担当：樋口先生、柳口先生、荒木先生、佐藤支援員



一瀬



岩野



内山



大熊



太田



大堀



倉田



近藤



菅野

令和元年度 中央の会の皆さんの年賀状Ⅱ

指導担当：樋口先生、柳口先生、荒木先生、佐藤支援員



猶原



谷戸



荒木先生



佐藤支援員



令和2年1月南の会の皆さんの絵馬札づくり I

指導担当：中島先生、越善先生、平賀先生



麻薙 伸枝



大野 敦子



大堀 孝章



陰山 誠人



久保 勝利



古賀 国靖



後藤 孝治



里見 義文



沢崎 清

令和2年1月南の会の皆さんの絵馬札づくり II

指導担当：中島先生、越善先生、平賀先生



土弘 雅道



中澤 秀樹



久田 稜



古山 久子



真尋 繁子



宮原 静

1年間ありがとうございました

北里大学東病院 言語聴覚士
中島 麻友

「さえずり」の製本時期がきますと、「1年間あっという間だなあ」と、ぼんやり考えてしまいます。北里大学東病院に入職してから早いもので5年たち、今年度はじめて失語症友の会を担当させて頂くことになりました。まだ不慣れな私をいつも温かく迎えて下さった皆様に感謝申し上げます。

昔から大勢の前で話をするのが苦手なこともあり、病院から会館へ向かう道中、緊張していたのを今でも覚えています。いざ始まると、会全体の雰囲気がとても温かく、明るく、そして皆様の優しさに触れ、いつの間にか緊張がほぐれていました。会を重ねるごとに、皆様の近況報告を聞くのが楽しみになりました。

本来は2年交替なので、来年度も担当する予定でしたが、この度、新しい命を授かり、お休みを頂く関係で、今年度いっぱい担当を降りることになってしまいました。突然のご報告で申し訳ございません。お腹の子は順調に成長しているようで、元気に手足をばたばた動かしています。私よりも夫がはりきってしまい、性別もわからないうちから名前を決めていました。育休後は北里大学病院に戻る予定ですので、また皆様とお会いできたら嬉しいです。その時は、産まれてくる子どもの顔もぜひ見て下さい。お会いできなかった間の皆様のお話もお聞かせ下さい。

最後になりますが、南の会の皆様、ご家族の皆様、ボランティアの皆様、音楽療法の先生方、これまで様々な場面でご協力いただき、ありがとうございました。

今年度で東病院は閉院し、北里大学病院（本院）に皆で引っ越しをしますが、今までと変わらず、ST一同頑張っています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



今年の思い出 ～第一子の誕生～

さがみりハビリテーション病院 言語聴覚士
恒吉 智俊

奇数月に「中央の会」に参加させて頂いております、恒吉です。

私事ですが、7月に第一子が誕生しました。出産予定日より約2週間早い誕生にも関わらず、4008gの巨大児での出産となりました！とは言うものの、抱っこをすると非常に小さく、「腕の隙間から落ちてしまうのではないか…」と心配になるほどでした。

里帰り出産であったため、会えるのは1～2週間に1回に留まり、たまに会うと大きくなっていました。成長の喜びとともに、毎日の変化を近くで見たかったという寂しさを感じました。里帰りから戻り3人での生活が始まったとき、今話題の育児休暇を取得させて頂きました。なかなか寝るまでに時間がかかり、寝かしつけの大変さや、子供が落ち着くような抱っこの仕方を習得するまで時間がかかりました。また肌が少し荒れることや、鼻水が垂れることなど小さなことが心配になりました。その度に母に言われた「子供が生まれると心配の種が生まれるよ」という言葉が頭に浮かびました。

そんなわが子も誕生から6ヶ月経ち、首が座り、寝返りができ、離乳食を始めました。寝返りを初めてした時はあれ程までに嬉しかったのですが、最近はおむつ交換の時に自慢げにうつ伏せになり、困るほどです。これからも子供の成長とともに、嬉しいことや大変なことなど今しかない時間を大切にしながら、仕事と家庭を両立できるように励んでいきたいと思います。

こんな私ですが、今後ともよろしくお願い致します。



2年間を振り返って

相模原協同病院 言語聴覚士
湯浅 敦子

相模原失語症友の会中央の会に参加させていただいて早2年が経とうとしています。2年前は、学校を卒業したばかりで失語症の方と関わった経験も少なく、不安と緊張の中参加させていただいたことを今でも鮮明に思えています。今年度に入ってから少し緊張も和らぎ、会を楽しむ余裕が出てきたのもつかの間、初めて会の進行をさせていただきました。会のみなさんの優しさやお気遣いで何とか会を進めることができ、改めてみなさんに支えられていることに気づかされました。

私が失語症友の会で一番好きな時間がゲームの時間です。今月は何をしようか、みなさんが楽しめそうなものを考え準備をすることも楽しいのですが、自分の考えたゲームをみなさんが楽しそうに、そして本気で取り組んでくださることがとてもうれしく、見ているこちら側も楽しくなるからです。

また、近状報告では、いろんな出来事やニュース、豆知識など、私も知らないお話をたくさん聞くことがあり、毎回楽しく聞かせていただいています。普段は入院されている方と関わることばかりで、みなさんのお話の内容から失語症の方が退院後どのような生活を送り、どんなことを感じていらっしゃるのか、直接聞いて感じるができることはとても勉強になりますし、貴重な経験だと思います。今後も、失語症友の会で得た知識や経験などを仕事や勉強にも生かしていければと思っています。

相模原の失語症友の会に参加して3年目になる来年度は、もう少しみなさんのサポートができるように頑張りたいと思います。これからもたくさんご迷惑をおかけすると思いますが、今後もよろしく願い致します。

一年を振り返って

東芝林間病院 言語聴覚士
遠山 千佳

友の会に参加させて頂いて、ちょうど2年が経ちました。前年度では毎回毎回緊張して、参加したみなさんが楽しめたのか不安が残ることが多くありました。しかし今年は昨年以上に、「みなさんに楽しんでいただこう！」という気持ちと同時に、私自身も「楽しもう！」という気持ちを大事にして臨めたなど、振り返って思っています。

個人的な話ですが、去年の11月に病院内で行われた学会で友の会の活動について報告をしました。病院での個人的なリハビリと友の会での集団活動では、コミュニケーション能力に大きな差があることを、当院のスタッフに伝えることができたのは、とてもいい思い出です。

私自身、学会以前から友の会の穏やかで団欒としたムードは、参加しているみなさんの心理的な緊張感を和らげて、会話ややりとりをよりスムーズにしていることを感じる場面が多くありました。

実際に報告に向けて、普段当院に通っていただいている方のリハビリの様子を思い出しながら、友の会での様子を見てみると面白い発見がたくさんありました。表情の変化や、発言するときの声の大きさ、言葉を発する量といったコミュニケーションにおいて大切な要素が、圧倒的に友の会の方で多く見られたのです。友の会のメンバー同士で会話をしたりゲームをすることで、安心感や一体感から個人が持っている能力を100パーセント以上発揮できることが、学会での報告を通して改めて論理的にわかり、友の会に臨むモチベーションがさらに高まりました。

来年度以降、友の会に参加できなくなるのがとても寂しいですが、友の会での学んだことを活かして日々のリハビリ業務に取り組みたいと思います。また時々みなさんの顔を見に遊びに行けたらとも思っているので、よろしくをお願いします。

たくさんの素敵な学びの機会をいただいた友の会の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。二年間本当にありがとうございました。

沖縄八重山諸島巡り

音楽療法士 越善 由佳

2019年2月～3月の約3週間、石垣島を中心とした八重山諸島巡りをしてきました。

沖縄への旅行は初めてで、本州最北端で生まれ育った私にとっては沖縄は憧れの地でもありました。長期休みの時間を作ることができたので、この機会を逃してはいけない！と思い立ち、期間だけ決めて往復分の飛行機チケットだけを確保して石垣島に向かいました。2月はオフシーズンということもあり、終始ゆったりのおんびり過ごすことができました。

石垣島を拠点として、石垣島→西表島→鳩間島→黒島→竹富島→与那国島→小浜島→波照間島の9つの島を巡ることができました。中でも、西表島、竹富島、与那国島、波照間島はまた訪れたいと思える島でした。どこの島も時間の流れがゆっくりで、自然と共存していて、素敵な景色ばかりでした。

天気が良くない日が多くありましたが、一番の目的だった南十字星を肉眼で見ることができた時は大興奮でした！南十字星は基本的には南半球で見られる星座なのですが、2月～5月だけは日本の沖縄以南で条件が合うとみることのできる星座です。この星座を撮影するためだけに冬季だけ沖縄に移住してくる人がいるくらい、日本で見ることは稀な星座なのです。24日間の滞在で、気象条件が合ってクッキリ見ることができた日は小浜島に滞在した1日だけでした。

日本最西端の与那国島、日本最南端の波照間島にも足を延ばすことができました。与那国島では与那国馬にも会うことができ、身体はあまり大きくないですが、目がくりっとしてかわいかったです。波照間島では幻の泡盛「泡波」を島のおじいに振舞っていただき、島の方々と旅行で来ていた数人とで楽しい思い出もできました。

移住者の多い沖縄ですが、それぞれの島で生まれ育った現地の方にお世話になり、今まで知らない感じたことのない自然や人の温かさに恵まれた3週間でした。



竹富島：ブーゲンビリアの道



与那国島：東崎灯台の与那国馬



西表島：パラス島（珊瑚の島）



波照間島：日本最南端平和の碑

近況報告と旅の思い出写真

失語症ボランティア
松木 菌 一道

近況報告いたしますと昨年6月で満80歳を経過いたしました。途端に右足が腫れて歩けず痛い思いをいたしました。北里大学病院心臓血管外科で下肢動脈の狭窄という事がわかり、動脈を拡げる手術をいたしました。現在リハビリ中で少しずつ歩行訓練中です。賞味期限切れにならないよう本年も頑張りますので今後ともよろしくいたします。

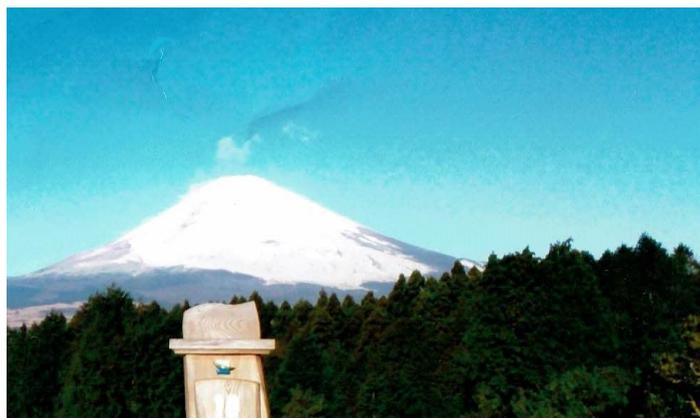
私の思い出の大きい旅行写真です。



秋田県なまはげ見物



台湾旅行



富士山

相模原市主催 障害者作品展

日時：令和元年12月6日（金）～8日（日）

会場：あじさい会館6階 第1・2展示室

「相模原市主催障害者作品展」に、相模原失語症友の会も参加しました。日頃の取り組みである習字、絵、写真、彫金、年賀状等を出展いたしました。展示期間中は、失語症者コーナーに長く足を止めて鑑賞してくれる人が大勢いました。



相模原失語症ミニ作品展及び相談コーナー

ミニ作品展：令和2年2月16日（土）～28日（金）10：00～16：00

相談コーナー：令和2年2月21日午後1：00～16：00

22日（土）、23日（日）10：00～16：00

会場 南区福祉交流ラウンジ（相模大野駅前ポーノ北館2階）

- ★失語症者の日頃の悩み等：市内大手病院勤務の言語聴覚士が担当
- ★失語症者向け意思疎通支援者制度：神奈川県認定意思疎通支援者が担当
- ★音楽療法について：市内音楽療法士担当
- ★失語症友の会活動について：相模原失語症友の会担当

展示品

ミニ作品展では習字、絵画、写真、彫金、パネルで失語症友の会の紹介、ポスター掲示で会員の皆さんの年賀状、失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の紹介等を行いました。

今回は新型コロナウイルスの影響で前回に比べて一般の来場者が少なかったようです。

相談コーナーを利用された方は一日平均 5～6 名の相談があり、対応した結果安心されて帰宅されました。

来場者の感想

当日来場された方々の感想の一部を紹介いたします。

Aさん「皆さんの心のこもった作品にみとれました。無心で、真心のこもったものが伝わって来ます。」

Bさん「ビックリしました。お上手です。何か夢中になれるって幸せです。くれぐれもお大切に」

Cさん「素晴らしいです！自分だったら出来るだろうかと思います。このように外に出かけたり、リハビリをしたりする時に誰か手をさしのべてくれる人がいる必要がありますね。ここに至るまでの気持ち変わりがたなど、当人からじっくりお話が聞きたいですね。」

Dさん「心の純心に物を見て生きている。生き強さを感じています。ほんと皆様がおっしゃる通り素晴らしいの一言。「あっぱれ！！」。皆、お身体をこれからも色々苦勞もおありかと思いますが、私は感動をいただきました。一生懸命生きているという素晴らしい姿勢、ここまでに至るには一言で言えなかったでしょう。」

Eさん「皆様の作品を見て強く感心しました。良い作品に巡り合い勇気と気力をもらいました。」

Fさん「どの作品も人間の強さと暖かさが伝わってくるもので感動しました。」

Gさん「皆さんの作品がすばらしかったです。前向きに取り組まれている様子を感じることが出来ました。」

Hさん「とても素敵な作品に感動致しました。出来ないことを数えるのではなく、皆で楽しく話したり作品を作ることは大切な事ですね。私も頑張ろうと思わせていただきました。ありがとうございました。」

Iさん「素晴らしい作品に感動いたしました。悩みや心配事をこれからの方向性について相談出来まして感謝いたしております。的確なアドバイスをありがとうございました。」

Jさん「素敵な作品ばかりで感動いたしました。言葉で表現出来ない感情が伝わってきます。」



写真撮影 越善由佳先生



☆☆ 編集後記 ☆☆

作品集『さえずり』第31号発刊に際し、会員と家族、そして友の会を支えてくださる関係者の多大なるご協力をいただき、お陰様でここに発刊することが出来ましたことに深く感謝申し上げます。

この『さえずり』を今後永く継続して行くために、皆さんの忌憚の無いご感想、ご要望、ご意見をお聞かせいただけましたら幸甚に存じます。

さらに次号では今号以上の方のご投稿をお願い申し上げます。

この31号の編集・印刷作業を音楽療法士平野先生と北里大学東病院の言語聴覚士の皆さんにご協力をいただき大変助かりました。ありがとうございました。

編集担当事務局：古山 高

さえずり第31号

発行年月日 令和2年3月30日

発行者 相模原失語症友の会

会長 陰山 誠人

この冊子は、相模原市役所と社会福祉法人相模原社会福祉協議会からの活動補助金で製作しております。



相模原市では障がいの有無にかかわらず、あらゆる人の尊厳が守られ、安全で安心して暮らせる共生社会の実現に向けて「共にささえあい生きる社会」をキャッチフレーズとし、障がいなどに関する理解・啓発を進めています。